

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
78	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Alcohol intake, drinking patterns, and risk of prostate cancer in a large prospective cohort study. 飲酒パターンと前立腺癌の危険:大規模コホート研究	
<b>執筆者</b> Platz EA, Leitzmann MF, Rimm EB, Willett WC, Giovannucci E.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Am J Epidemiol. 2004;159:444-53.	
<b>キーワード</b> 前立腺癌・飲酒量・飲酒パターン・コホート研究	
<b>要 旨</b> (目的) 飲酒と前立腺癌の関係に関して広く研究されているが、その結果は一定ではない。従来の研究は飲酒パターンを検討していない。本研究において、飲酒パターンと前立腺癌の発症の関係を前向きに追跡して明らかにする。  (方法) 1986年から1998年まで追跡するコホート研究である。対象者はアメリカ人男性47,843名であった。追跡期間中、2,479名が前立腺癌を発症した。追跡開始時に、アルコールの種類およびその摂取量などに関する詳細な情報を得た。対象者を1週間の平均飲酒量 (<105g/週または $\geq 105$ g/週)によって階層化して、コックス比例ハザードモデルを用いて、平均飲酒量と1週間あたりの飲酒日数の違いによる前立腺癌に関するハザード比を求めた。  (結果) 非飲酒者と比較すると、平均飲酒量が5.0-14.9g/日、さらに30.0-49.9g/日に増加するにしたがい、最近の喫煙量および他の要因を調節した前立腺癌の危険は有意ではないがやや高い傾向を示し、そのハザード比(95%信頼区間)は、1.05(0.94-1.18)、1.13(0.96-1.33)であったが、平均飲酒量が $\geq 50$ g/日では1.00(0.77-1.31)で危険は増加しなかった。生涯の非飲酒者と比較すると、1週間に1-2回だけの飲酒で平均飲酒量が $\geq 105$ g/週の飲酒者では前立腺癌の危険は有意に高く、そのハザード比は1.64(1.13-2.38)であった。  (結論) 機会的な多量飲酒は前立腺癌の発症に寄与する可能性があるが、中等量から多量の飲酒は前立腺癌の発症にそれほど強くは寄与しない。	